

74回目を迎えた終戦記念日に思う

自衛隊はJIEITAIのまま

自衛隊を日本軍にしたいのは誰か？

終戦記念日に象徴的な二つの出来事

74回目を迎える終戦記念日。この時期になると毎年、戦争がらみの出来事が紹介され、メディアなどこぞって特集が組まれています。そのようななか、特に気になった出来事があります。

憲法9条は世界遺産

一つは、2019年8月12日中日新聞日刊に、掲載された元自民党幹事長古賀誠氏のインタビュー記事です。古賀氏は「憲法論議はしっかりやらないといけない。と前置きし現行憲法で守るべきは9条。立憲主義と平和主義」と評価しています。そして憲法改正にな並々ならぬ意欲を見せる安倍首相にたいし、「安倍一強は、戦争末期と同じ政治の貧困」と現状を危惧しています。悲惨と絶望の戦争末期、なをも日本を破滅へと突き進ませたのは政治の貧困であったのです。謝った道を修正できる力こそ必要なのです。正しい情勢の判断また反対する人の声を生かす姿勢があれば、少なくとも沖縄戦も広島、長崎への原爆投下、も防げたのではないのでしょうか。

軍隊は国民を守らない

もうひとつは、終戦記念日の8月15日、中国深センに武装警察が集結と各メディアは伝えています。武装警察は解放軍の指揮下にあるともいわれています。誰が考えてもこの時期に、香港近くの深センに10万にも及ぶ軍隊を集めるのは香港情勢と無関係でないと思いませんか？香港市民の抗議行動に対する圧力には十分すぎます。軍隊は市民を守らないことをまさに物語っています。

安倍首相は、憲法改正の目玉に自衛隊を明記することに並々ならぬ意欲を示しています。自衛隊を現行のままで何の問題があるのでしょうか。災害の出動での任務でなく、大手をふって紛争地区に参加し、軍事行動の一翼を担わせたいとしか考えられません。

能あるタカはツメ隠す

先の参議院選挙で自民党は安定多数を確保しました。一方投票率は下がり、自民党の得票も下がったなかの勝利でした。明確な論点が無く、安倍首相の真の姿は隠したままの選挙でした。結果自民党に勝利を与えてしまいました。また街頭演説に立った安倍首相にヤジをとばした聴衆を警官が取り囲むなど、ものがいづらくなってきています。まさに戦時中さながらの状況です。まだ大丈夫です、今まだものいえるうちに声を上げましょう。

戦争反対！ 憲法改正反対！